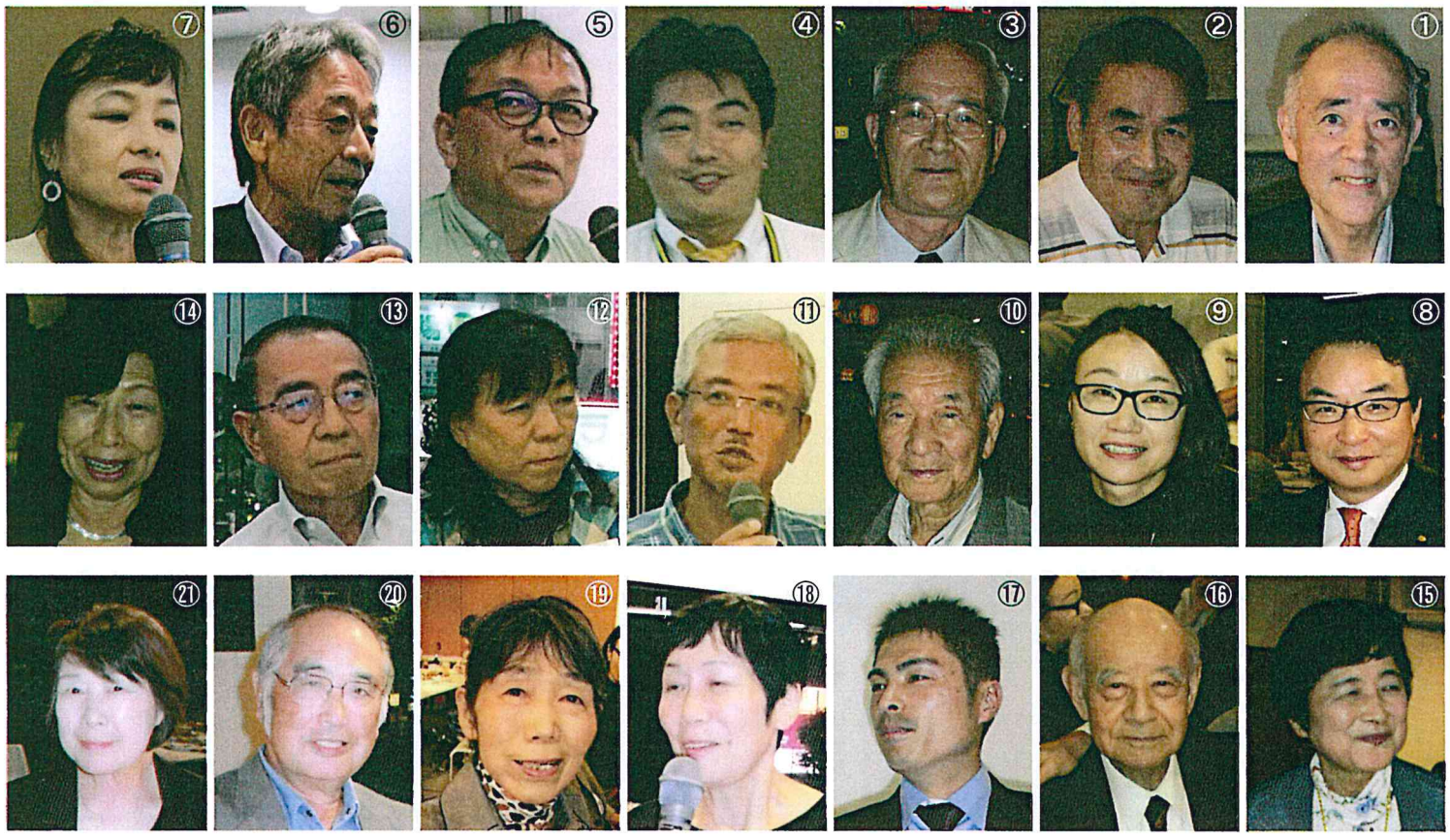
新入会員を囲む懇親会

平成29年9月6日（水）18時00分よりとっとりおかやま新橋館2階ももてなし家で、会長以下現役員・幹事17名と新入会員21名並びに事務局の3名による懇親会がもたれた。以下新入会員皆さんの横顔と声を収録した。

（写真／奥田真三・遠藤隆司　聞きとりメモ／林田英樹）



新入会員発言要旨

（敬称略、数字は写真との合い番号）

①**近藤志朗**　ニューヨークの日系企業で41年過ごした。ニューヨークにも鳥取県人会があり、会長を務めていた。岩美町出身。

②**山根啓二**　八頭高を卒業して20年ほど前に上京。友人のフェースブックで県人会のことを知った。

③**清原大助**　米子東高に入学し1年の2学期から叔父の勧めで上京。荒川区で外国人留学生向けの日本語学校を経営。15年前は中国・韓国が多かったが、今は東南アジア、ウズベキスタンの学生が増えた。学生の選考のためにウズベキスタンを訪問した。ゴミも落ちていない清潔な国である。第2次大戦後のロシア抑留の日本人が立派な劇場を建設し、大地震にも耐えて尊敬されている。日本語教師の資格のある人を募集中。

④**深田法尊**　中学校卒業の後は横浜、東京で暮らす。41歳。地元に貢献したい。（他の出席者から、後醍醐天皇の立ち寄られた庭の関係者ですねとの話あり）

⑤**浦川隆一**　中学同級生の土井成年さんに誘われて入会。神戸に自宅あり。全日空機内誌の通販などを扱う商事会社経営。

⑥**高田嘉秀**　湯梨浜町（旧羽合町）出身。同級生3人で出席。土井さんから勧誘。自宅は大阪にあり単身赴任中。現役なのでまだ参加には制約がある。故郷は懐かしい。昨年初めて総会に出席し、石破さん、知事と話ができた。

⑦**花山朝子**　杉並に40年住んでいる。高校卒業後上京。2年前からは新橋近くで働いている。このショップは良く使っている。60歳を過ぎて、鳥取のために役に立ちたいと思うようになった。県と県人会の役に立ちたい。

⑧**武田博史**　浦富出身、柏に住まい。岡崎鳥取県東京本部長とは40年ぶりに再会。高校時代（鳥取西高、岡崎氏は鳥取東高）はお互いに剣道部で頑張った。岡崎氏は鳥取の強豪だった。附属中、鳥取西高、東因会で一緒の三角さんの勧めで入会。

⑨**清水裕美**　鳥取のきのこセンターに勤務していたが、7月に孫3人の世話のために上京。しいたけイベントなどでショップとはなじみがあった。車を持って上京し、黒の鳥取ナンバー。

⑩**手島淳行**　境港出身、囲碁を通じて県人会と交流していた。上村さん、足立さん、萬治さん、遠藤さんなどと知り合いの仲。小泉さんに囲碁の関係で勧誘され入会。司葉子さんとは同級生で卓球部も同じ。東京でも交流。

⑪**米原敬和**　最近定年を迎えた。高校までしかいなかった鳥取のことを良く知らないと思うようになり、もっと知りたくなった。

⑫**小林江連**　岸田さんの妹。芝公園で仕事をしていたが、2年前に勤め上げた。このショップとは、付き合いが長い。

⑬**岸田遼生**　小学校で同級の福井さんから誘われた。小学校1年生の時の写真をもらった。実家は上井駅の駅弁屋だった。小学校4年で上京したので、県人会員の資格があるだろうかとも思った。（福井さんよりの情報。岸田純之助氏―朝日新聞、科学ジャーナリストのご子息、お名前はレオナルドの由）

⑭**小島敏恵**　萬治会長と中学校で同級。

⑮**村岡英子**　萬治会長と中学校で同級。

⑯**小谷猛太郎**　87歳の新会員、小さい時に岩井温泉に住んだ、東京に出ていたが戦時中に鳥西に1年間在学、岩美町出身者の会（東因会）で萬治会長に会って勧められ入会した。

⑰**町野秀隆**　米子から参加、昔東京に住んでいた。

⑱**小松節子**　淀江出身。大山町に弟が在住。コーラスの付き合いが縁で入会。相模原市橋本在住。

⑲**大谷奈津子**　小川さんの紹介により夫婦で入会。夫は体調が悪く欠席。米子出身。夫は淀江町出身。

⑳**太田道彦**　鳥取西高卒　千葉県在住。ふるさと納税はお返しが素晴らしいので、お勧めします。

㉑**太田範子**　太田夫人、鳥取東高卒。当懇親会に出席された役員（当時の役職）幹事、事務局員は次の通り。　萬治隆生会長／足立盛二郎・林田英樹・福井宏一郎各副会長／小川浩史・小泉典子・三角幸子・畑中静子・奥田真三・藤井田多恵子各常任幹事／河崎妙子・長尾克己・小林淳・友定義晴・遠藤隆司・川西義人・末次克彦各幹事の皆さんと東京本部から岡崎隆司本部長／吉井美和子副本部長／市田拓也副主幹の総勢41名。

訃報

西村和義様（86歳・岩美町出身）本会の元副会長で評議員を務められていた西村和義さんは、去る10月の県人会総会と懇親会には出席されていましたが、11月6日入院中の病院でご逝去されました。ここに謹んでお悔みを申し上げます。

随想リレー

リアリスト秀吉の山陰撤退

副会長　福井宏一郎

かわにしよしと描く

秀吉が鳥取城を包囲して吉川経家を切腹・開城に追い込んだのは有名だが、その後の秀吉の行動は意外に知られていない。秀吉はすぐさま3万の軍勢を率いて鹿野経由で西に向かい、経家切腹の2日後には東郷湖畔に布陣した。そのすぐ北側の橋津海岸に接する馬ノ山には吉川元春の本隊6千が待ち構えており、一触即発の対峙となった。

吉川元春の本隊が鳥取城の救援に駆けつけられなかったのは、織田側に付いて峻険な羽衣石城に籠る地元の南条元継（伯耆守）が強くて、なかなか落とせなかったからだ。

3万の軍勢で圧倒すれば元春は出雲に引き揚げるかと思いきや、戦国一の猛将といわれる元春は橋津川の橋をすべて落し、海の船を全て陸にあげて櫓を折り、退路を絶って背水の陣を構えた。これを見た秀吉は容易ではないと判断し、元春軍の挑発にも乗らず、数日間の対峙の後で姫路へと撤退した。元春の嫡男の元長は追撃を進言したが、冬も迫っている。伯耆・因幡は来春にまた攻めればよいと、元春も出雲に引き揚げた。

辛いのは南条元継だ。宿敵の尼子を一緒に倒した恩ある毛利を裏切って織田信長の調略に応じ、その前年から恐ろしい元春の攻撃に耐えていたのである。翌年の毛利の攻撃で羽衣石城は九月に落城、元継は落ち延びた。この間に本能寺の変が起こった。実力者になった秀吉は毛利から東伯耆を取戻し、元継を領主に復帰させた。不義理は申し訳ないという事か。この辺がリアリスト秀吉の後始末だ。

元春の本陣があった馬ノ山は古墳時代前期の古墳でも有名である。山頂近くの展望台から西に、大山・弓ヶ浜に連なる海岸線が雄大だ。天気のいい日には海の彼方に隠岐の島が見える。一度お訪ねあれ。

ふるさと鳥取ファンクラブ
鳥取県を楽しむ特典満載！
ぜひご入会ください
【会費】2年間2,000円
〒680-8570
鳥取県鳥取市東町1-220（鳥取県庁内）TEL 0857-26-8374
ふるさと鳥取ファンクラブ　検索　http://www.kouhouren.jp/

株式会社　チュウブ
代表取締役社長　大田　英二
〒103-0014　東京都中央区日本橋蛎殻町1-29-6
水天宮前東急ビル6F
TEL 03-5640-8122
FAX 03-5640-8100

リンガーハットグループは昭和37年、長崎市鍛冶屋町の「とんかつ浜かつ」の開業に始まります。その後、長崎ちゃんぽんを看板にリンガーハットの店舗展開を始めて、創業より54年が経ちました。今では海外へも進出し、グループ合わせて750店余を展開しています。
株式会社　リンガーハット
代表取締役会長兼CEO　米濵和英
（鳥取市出身）
〒141-0032　東京都品川区大崎1-6-1 TOC大崎ビル14F
TEL 03-5745-8611　FAX 03-5745-8622

国産野菜たっぷり「野菜たっぷりちゃんぽん」

地方創生ばなし《その7》

アジアの若者が集い躍動する地へ

日韓高校生サッカー交流IN大山　実行委員会副委員長　神庭　浩志

去る11月24日から3日間、米子市のチュウブYAJINスタジアムで「第1回アジア国際ユースサッカーIN鳥取（以下ユースIN鳥取）」が行われました。

韓国・江原道のプロチームである江原FCユースと香港サッカー協会のユース選抜チームを招待し、ガイナーレ鳥取ユースとリーグ戦を行い、ガイナーレ鳥取ユースは見事2勝して優勝を飾りました。

日本サッカー協会の承認を得て行われたこの大会は、クラブ・セブンティの企画・後援により2013年から行われている「日韓高校生サッカー交流IN大山(以下高校生IN大山)」の5周年記念事業として開催されました。

「高校生IN大山」は、ふるさと発展のため、国内に向けるのと同程度の関心と努力を、海外とりわけ環日本海地域に向けよう、との問題意識から始められ、次のような目標を掲げています。

・大会スローガンは「お互いの顔と名前をおぼえて友達になろう!」とし、国内外における友情の輪を広げることを目的とする。

・自立した判断力と行動力を有する高校生が友情の絆を結び、お互いのふるさとの繁栄につなげる。

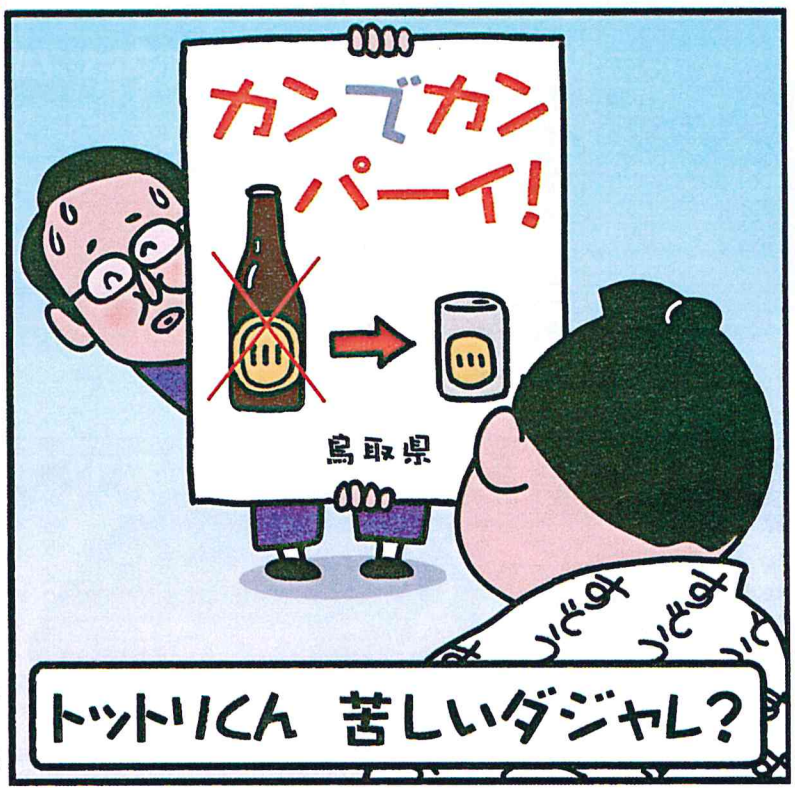
・大会の運営資金は、鳥取県内外の個人・企業・団体の浄財で賄う。

・毎年米子地方で開催し、地元の人々の諸外国に対する理解と関心を高める。

・このような取組を通じ、ふるさとの発展と、環日本海を「明るく、安全で、ヒト・モノ・カネ・情報が自由に行き交う、友好の大海」とする理想の実現に寄与する。

一方、「ユースIN鳥取」は、トップチームを目指すユース（高校生年代）の選手がガチンコの勝負でサッカーの技を磨く本格的な国際大会であり、人口最少県鳥取の大きなチャレンジといえます。

「ユースIN鳥取」が、アジアの若者が目指し憧れる大会として継続・発展し、ふるさとが、アジアの若者が集い躍動するフィールドとなることを願うものです。



▲漫画／かわにしよしと

◎大山の豊かな恵み「農と食のフェスタ」盛大に開催

新日本海新聞社西部本社主幹　寺谷　寛

大山の恵みをいただいたコメをはじめ海や山の幸、食を一堂に集めた「農と食のフェスタ」が10月21・22日の2日間、JR米子駅から米子コンベンションセンター一帯を会場に盛大に催された。

鳥取県西部地区でそれぞれ別々に開催されていた「米フェスタ」「JAふれあいまつり」「ネギ来まつり＆米子駅まつり」「せいぶの農と食のまつり」の4つの祭りを4年前から同時開催。今では「鳥取県西部を代表する秋のイベント」として定着。今年は125業者が出店し、2日間で4万人の来場者でにぎわった。

その中心となるのが今年で30回を迎えた「米フェスター米生郷祭」である。1988(昭和63)年、「八十八」の「米年」にちなんでコメのふるさと・米子で「米」をテーマに主食の米や稲作文化を考えようと生産者、消費者、米卸業者にJAや県なども加わってスタートした。

当初から日本海新聞も関わり、私も最初から関わってきた。コメや農業の問題を真正面に据え、新聞社が主導するイベントは全国的にも珍しく、注目された。

もう一つが大山の麓・伯耆町丸山地区での田植えや稲刈りなどの体験。地区挙げての支援で、参加者は親子250－300人に上り、食育、食農教育の先駆的な取り組みとして高い評価を得ている。

来年はいよいよ大山開山1300年を迎える。来秋は「開山1300年」をテーマに大山の自然と大地が育んだ食を一堂に集め、より趣向を凝らせた多彩な催しをと考えている。ふるさと大山の豊かな自然と恵みを伝えるイベントにぜひ多くの人に参加いただき、一緒に1300年を盛り上げていただきたいと願う次第である。

県人のお店

冬だからあったかいそうめん（にゅうめん）「そうめん屋はやし」

JR京浜東北線または東急大井町線『大井町駅』から徒歩7分のところに『そうめん屋はやし』はある。鳥取市出身の民謡歌手、倉益紀子さん(写真右)のオススメの店だ。

店の扉を開けて一瞬戸惑った。んっ?本当にそうめん屋さん?コンクリート打ちっぱなしの高い天井、檜の白木作りの大きなテーブルに切り株で作られたイス。テーブルの上には季節の花がさりげなく飾られている。花屋さんか雑貨屋さんというのが第一印象だった。

シンプルでセンスの良い空間には清潔感があふれ、流れる空気がすがすがしい。静かなクラッシック音楽も心地よい。

店は3年前の12月にオープンした。店主の林眞智子さんは(写真左)鳥取市出身。昭和22年生まれ。団塊の世代だ。「自分のイメージどおりの店を展開したいと強く思いましたので、設計から内装まですべて私がデザインしました。お客さんに何屋さんかしら?と思わせる、そうめん屋らしくない店にするのが私のコンセプト。思惑通りになりました」(笑)。

兵庫県の名産、手延べそうめん「揖保乃糸」の最高級の熟成麺「特級」を使っている。この店の一番人気は日替わりランチ(¥1000)。眞智子さんが心を込めて作る「おふくろの味」の総菜とご飯とにゅうめんのセット。一汁五菜が基本のメニューだ。本日は、えびとキャベツの塩そうめん、厚焼玉子、棒々鶏、ひじきの煮物、玄米おにぎり。昨日はチキンカツカレー、昆布の煮物、にんじんサラダ、八宝菜、ミニそうめんセット。お客さんの年齢、性別、体格を見て分量を加減するという心遣いをしている。

夜になると、店は「そうめんBAR」に変身。アルコール各種がそろい、旬のおつまみも充実している。

「毎朝、大きな鍋にかつをと昆布を入れてじっくりダシをとります。化学調味料は一切使いません。食材は無添加のものを選び、発酵食品をメインに身体に優しい『食』を提供しています」(眞智子さん)。野菜や魚は鳥取から直送で届く。特に鳥取の豆腐竹輪は大人気だ。

「店のイスに座ったらもう、すっかりくつろいで根が生えてしまうお客様が多いです(笑)。回転が悪くて売上にはつながりませんが、知る人ぞ知る『かくれ家』的な店にするのが私の夢でしたから、これでいいかなって。健康によい美味しいものを作って、食べていただき、楽しくおしゃべりしてゆっくり過ごしていただけたら嬉しいです」(眞智子さん)。なるほど、リピーターが多いのもうなずける。

この店では月1～2回「鳥取そうめん会」を開いている。鳥取県出身者が10～15人集まる飲み会。年齢・性別不問。不定期なので、興味のある方は店に電話を。全席25席■東京都品川区大井1-16-2ブリリア大井町ラヴィアンタワー1F／TEL03・6809・9700■営業時間／11時～22時。ランチは15時まで。■定休日／日曜日。

（文／加藤雅子　写真／遠藤隆司）

「交流部会」

交流部会では秋から冬にかけてのイベントが活発に続いています。秋の因伯オープンゴルフコンペは、湘南カントリークラブ（神奈川県）にて10月16日に行われました。当日はあいにくの雨模様の中でも、元気に27人8組がプレーとなりました。今回の試みとして東部対中部対西部の団体戦も行われ、大差で中部軍の勝ちとなりました。西部軍および東部軍は発奮して、陣容を強化したいものです。次回来春のコンペは5月21日に千葉方面キングスフィールドGCで行われる予定ですので、多くの皆さんのご参加を期待しております。

10月21日には恒例の秋の囲碁大会（写真）が麹町ダイヤモンド囲碁サロンにて開催され、4戦全勝で竹本一策様がめでたく優勝されました。来年も5月頃に春の大会を開催する予定となっておりますので、愛好家の方々はお見逃しのなきようご留意ください。

また12月10日には、昨年に続いて県人会歌舞伎鑑賞会が国立劇場にて行われました。先ごろ文化功労者の栄誉を受けられた中村吉右衛門座頭の公演で、古風で華やかな長唄舞踊「今様三番三」に続いて、義理と人情に厚い侠客の活躍と苦衷を描いた名作「隅田春妓女容性－御存梅の由兵衛」をお楽しみいただきました。県人会の歌舞伎鑑賞イベントは、開演の直前に別室で専門家の解説・見どころなどのレクチャー付きで、普段は余り歌舞伎に縁のない人でも歌舞伎が楽しめるとの評判に加え、団体特別割引料金なので例年大好評です。来年も11月から12月にかけて企画したいと予定していますので、お見逃しのないよう告知・案内させていただきます。

さて来年に入りますと、初めての試みとして2月頃に鳥取県の青年会議所等の若い経済人と東京で活躍中の県出身経済人との交流会を企画しております。郷里鳥取県の発展に寄与するための催し強化の一環です。

この他、県出身者の親睦・交流を推進するとともに活躍中の県出身者との交流を深める催しとして、美術鑑賞会、鳥取県ゆかりの人物・話題を軸に、講演会・懇親会・グルメの会・クラシック音楽サロン会など多様な企画を随時開催したいと考えております。これらを通じて、県人会の魅力を高め、若い人や女性にも喜んでもらえ、県人会員増強にもつながるように努めて参ります。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

（勝部日出男）

▼遠藤編集人をかわにしさんが似顔絵でおこしてくれました。われながらそっくり!

▼会員の皆さま、よい新年をお迎え下さい。（遠藤隆司）

●こだわり抜いた素材と製法で、お客さまに大好評！
セブン-イレブン「こしあん、つぶあん、レーズンパン」
株式会社　武蔵野フーズ
代表取締役会長　安田　定明
〒351-0034　埼玉県朝霞市西原1-1-1　TEL 048-487-1111　FAX 048-487-6023

【自社開発商品】

全国異業種協同組合連合会
協同組合情報サービス
代表理事　永井　幹（米子市出身）
組合本部　東京都新宿区西新宿3－9－23　電話　03（3376）4783
米子事務所　鳥取県米子市上後藤3－15－1　電話　0859（24）2453

仲買人直営の店だから!!
獲れたて、海の幸をおとどけいたします。
天然海水いけす　海陽亭
オーナー　村上和良　社長　村上亜由美
〒680-0905　鳥取市賀露町西浜3丁目27-1
TEL0857-31-4649 FAX0857-31-4651／営業時間 11：00AM～15：00PM、17：00PM～21：00PM／定休日 火曜日

株式会社 内藤音楽事務所
Naito Musical Enterprises
代表取締役　藤井田多恵子
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-16-36
TEL03-3200-3501/FAX03-3200-3704
E-MAIL:info@naito-m-e.co.jp
URL:http://www.naito-m-e.co.jp/